

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700133		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	グループホーム 湖北台ケアガーデンワカバ		
所在地	千葉県我孫子市湖北台10-9-21		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年6月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の一角にある施設ではあるが、施設前の広場、公園も隣にあり、自然に触れ合うこともでき、庭ではガーデニングをしたりと土いじりを利用者と共にやっている。
また、庭が広く手すりの設置もしており、安全に歩行練習もできるようにしてある。
併設型施設ではあるが、小規模多機能、グループホームの利用者同士が楽しく気軽に談笑できるようにしている。
足湯の設備があり、いつでも足湯をできるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にあって、公園や広場が隣接し環境に恵まれている。建物は東北地方の建築を取り入れた造りで木のぬくもりを感じる。和室の小上がりの部分を残し全面バリアフリーで2階の天窓から光が入る。ホームでの生活はスケジュールに管理されることなくゆったりとしているが、掃除、シーツ交換、食事の献立など、できる事は職員と一緒に生活リハビリにつなげている。「ありがとう」の言葉を大切に、明るくアットホームな雰囲気である。「子ども110番」の家になっており、雨宿りやトイレなどに小学生が立ち寄ることがあり、利用者との交流が生まれる等、地域に溶け込んできている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年の目標を掲げ、その目標を実行できるように理念を共有している	目標は毎年職員が全員で話し合って決めている。玄関には、目標と指針を掲げ、実践に向け日々取り組まれている。理念については職員の理解度に差がある。	理念はその事業所が目指すサービスのあり方である。全職員の意識を統一して、均一なサービスの提供につなげることが期待される。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議、行事、イベントでの交流をしている。また、介護相談窓口において、ご近所様からの相談もある。	自治会に加入し、夏まつり、道路わきの花植え、年末には大掃除の後、近隣の自治会館で行われる餅つきなどに参加したり、ボランティアも受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独居高齢者の問題、認知症について運営推進会議を通して民生の方々と情報を共有している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加されている皆様の助言などを聴き、その問題点などを改善させていくよう努力している。	運営推進会議は小規模多機能と合同で年6回行われ、家族、自治会長、社協職員、民生委員、市職員、近隣住民などが参加している。昨年初めて行った外部評価結果は運営推進委員会で報告して、話し合いを行った。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回市から相談員(介護支援課)が来館され、利用者、職員とヒアリングを行っている。	運営推進会議の後、市職員と日中の過ごし方のアイデアなどを話し合ったり、地域に知ってもらうためのアドバイスを受けたり情報交換を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーマットを使用し入居者が出かけようとしているときは、一緒に散歩に行ったりをその都度対応している。また、居室に鍵が付いているが、利用者様の依頼で空き部屋になるときは施錠する場合がある。	委員会を立ち上げ、毎月、身体拘束の禁止行為等について勉強会を実施し、身体拘束をしないケアの意義を職員に浸透させている。玄関はセンサーマットが設置されていて施錠はしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については入浴時、身体の外傷などの確認や、心身の状態の把握にも努めて注意を払っている。		

グループホーム 湖北台ケアガーデンワカバ 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員においては学ぶ機会を持っていないが、対象者については、管理者、ケアマネが担当者との連絡、調整にあっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、読み合わせをして話し合いを行い了解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見などがあればスタッフ連絡ノートを活用し、その意見、要望をミーティングで話し合い検討している	毎月請求書と一緒に送るお便りに意見欄を設け、家族の意見を収集し対応している。12月のクリスマス会は家族が参加し、その後個人面談を行った。月1回相談員を受け入れていて、聞き取った内容は職員間で話し合い運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどでも職員の意見を聴くこともあるが、個人面談を年1回実施している。	職員から聞き取った意見や要望の中で、解決できる内容は事業所に対応している。対応できない内容は母体法人で検討している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態に偏りがないう工夫し、職員個々にレクリエーションを担当してもらい変化をつけている。各自が向上心を持つように居室担当制にしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては毎日教育シートを使用し、振り返り事項などの記入をしている。また、2ヶ月毎に力量シートを使用し、自分の力量を把握してもらっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と交流する機会はより実施している。地域の情報を今以上に知り、サービスの質の向上に反映させたいと思っている		

グループホーム 湖北台ケアガーデンワカバ 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様からの要望などに耳を傾けるだけでなく、職員からも提案し、少しでも悩んでいる事を解決できるよう努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心していただけるよう、電話、文章などで状況の経過を知らせるように対応している。ご家族様との面談も実施している		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様がどのようなサービスを一番に求めているのかしっかりと聞き取りをし、出来る支援については協力している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、食事の準備、後片付けなどを常にとともにを行い、生活協同者と思っただけよう努めている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントや誕生日などをご家族に知らせ、面会に来やすい機会をつくっていくよう努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が来所されたときは、他の利用者やスタッフも気軽に話をできるような場所にしていつでも来やすい環境をつくっている	美容院、墓参り、友人の家へ遊びに行く時の送迎など、入居者一人ひとりの生活習慣を大切にしている。入居者は月1回程度行われる外食や外出支援を楽しみにしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も交わり、共有できる話題を模索しながら共感、共生できるように努めている		

グループホーム 湖北台ケアガーデンワカバ 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族が孤立してしまわぬよう相談に応じ、必要ならば小規模多機能サービスがある事を伝え、途切れぬケアをしていく		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方を否定するような言葉づかいや行動は注意している。困難な場合はご家族との話し合い、連絡を取り検討している。	入所の相談は介護支援専門員、管理者が窓口になり、家族の希望、本人の状況などをアセスメントし、しかし、本人の生活歴、家族関係などを記載する場所がアセスメント用紙の項目にはない。	認知症の場合、本人から聞き取れる情報が少ないことが多く、その中で本人の自分らしさを探していく必要があるが、その際、生活歴や家族関係は重要な情報となる。情報の共有化のためにも、アセスメント用紙の見直し検討が期待される。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント以外にも会話の中で、生活歴や生活環境などをお聞きし、サービスの中での参考にしていく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活気が低下している時や居室に籠られているときは、落ち込まれることの無いように声かけをするよう努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やケースカンファレンス、ミーティングでの意見交換や、Dr. Nsのお意見も取り入れ、その都度ケアプランを見直している	月1度のケースカンファレンスや担当者会議で職員との意見交換は活発に行われている。医療での問題点は医師を含めた話し合いの場を設けている。	今後は、家族や本人が話し合いに加わることも検討すると、利用者の状況が家族にもよく理解され、別の視点が見つけれられたり、家族が感じている利用者の状況など皆で共有することで、多面的なモニタリングが可能になると思われる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変化は、記録はもちろんのこと、スタッフ間で報告し合い、ケアマネへも報告するよう努めている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変わりゆくニーズに対して、柔軟に支援やサービスを実施するよう努力しているが、出来ること、出来ない事を明確にして現在は取り組んでいる		

グループホーム 湖北台ケアガーデンワカバ 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の協力や施設周囲が公園、広場と良い環境であり、散歩、広場でのイベントに積極的に参加するようにしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療にかかわる必要な情報を把握し必要であれば主治医との話の場を設け、こまめにかかりつけ医との連絡をしている	現在内科は全員提携先の医療機関を受診している。精神科や歯科などは前からのかかりつけ医を受診している。医療機関との情報交換も行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が来所したときは利用者の健康状態、心身状況を説明している。また電話連絡をまめにして相談、支持を頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカーと情報交換し、ご家族からのニーズの把握もおこなっている。また入院先にもスタッフが面会に行き、時間があれば入院先のNsに情報をいただいている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に利用者及び家族の意思を伺い、個人の意志を尊重した終末期を迎えるようにDr、Ns、職員と連携していき、その情報を共有するようにしている	入所の際に、入所者及び家族の意向を文書にて取り交わしている。実際に終末期に入ったときは、家族、医師を含めた話し合いを持ち、施設でできることを明確にしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故の発生時に対応できるように、今後研修体制とNsから応急手当などの指導をしてもらい実践力を身に付けていきたいと思っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会が開催している防災訓練に参加はしているが、避難方法についてはマニュアル以外でも災害時を想定した訓練を実施していきたい。	防災の研修と訓練を行っている。4月にも訓練実施の予定である。避難方法などは、現在できる方法を、職員には周知している。しかし、マニュアルがまだ不十分なところがあり、役割分担などが明確になっていない。	いろいろな災害を想定し、被害を最小限にできるような方法を全員に周知しておくと共に、実際の訓練を重ねてスムーズにできるようにしておくことが必要と思われる。

グループホーム 湖北台ケアガーデンワカバ 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、記録の管理は徹底している。言葉づかいに注意し、利用者の生活歴などをしっかりと把握しケアを行っている	排泄時など、個人の羞恥心に配慮した対応をしている。管理者は、職員の言葉かけに問題があるときはその都度指摘し、対応の仕方を伝えている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員の間で何でも話せる関係を築き、思いや希望を聞くようにしている。職員が聴く側になり、聞いた話をケアに生かしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り起床、食事時間で利用者の意志を尊重している。集団生活の場であるが、利用者のニーズに応えられるサービスの提供に努めている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットの希望などを随時募り、行っている。また入居前に利用していた美容室などにも、ご家族、ご本人と一緒に行っていただけよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が付き添い、共に行う様努めている。週に1回利用者様のリクエスト献立を作っている	朝と夜の食事の準備、片付けは入居者のできることを手伝ってもらい一緒に行っている。週1回はリクエストに応じた献立にしている。個人の好みも把握しており、家庭的な雰囲気の中で、楽しく食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はその都度チェックし、1日のトータルを割り出し、少なめときには、申し送り、注意を促している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きをするよう声掛けし、磨いていただいている。介助の必要な方には介助し、義歯の方には手入れも行っている		

グループホーム 湖北台ケアガーデンワカバ 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導を行っている	排泄については、現在自立の入居者が多いが、排泄パターンを把握して、必要な人には声かけ、トイレ誘導が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事において食物繊維の多く含まれた食品や乳製品を取り入れるよう工夫している。また、体操や散歩、入浴などを行うよう努めている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定の曜日は決めているが、体調や気分、外出された時などは、他曜日に入っていることも可能である。AM、PMともに入浴できるようになっている	1階に広めの浴室、2階には家庭的な浴室があり、希望に応じて、ゆっくり入ってもらえるよう支援している。1階の浴室には床暖房が設備されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の訴え時には、お茶やホットミルクなどをお出しし、お話を聴くなどして対応している。また、翌日は無理のないよう申し送り、注意を促している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット時、内服時に誤薬がないようチェックに努めている。服薬による症状の変化については記録をし、症状をDr.Nsに報告をしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見など季節に合わせた行事を考え、外出したり、誕生会など利用者の希望を聞き、外食に出掛けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望された時には、散歩や買い物に出かけている。また、地区の盆踊りや餅つき大会にも参加している	友人の家を訪問する人がいたり、外出した際に、墓参りに行きたいと言われ、急遽対応したこともある。家族の協力も得ながら、できるだけ希望に添う努力をしている。	

グループホーム 湖北台ケアガーデンワカバ 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	どこかへしまい込んだり忘れてしまう利用者も多いので、金庫で保管し、外出時はスタッフが管理、使用の際にご本人にお渡ししている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときに電話をかけられるようにしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や絵を飾ったり、その時々合ったイベントを行い、季節を感じていただける環境づくりをしている。トイレや浴室などはこまめにチェックし、清潔を保つよう努めている	明るく清潔な居住空間で、装飾も過剰ではなく落ち着いた雰囲気がつくられている。室温は適切で気になる音等もない。春に咲くようにと庭には入居者が球根を植える等、季節を感じingことを大切にしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、2階フロアそれぞれに、食堂や和室などを自由に使用していただいている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを継続して使用していただき、安心して過ごせる部屋づくりを行っている	部屋の備え付けはベッドのみで、スペースもゆったりしており自分のなじみのものを持ち込めるようになっている。仏壇を持って来ている入居者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が洗濯物を干したり、たたんだりしやすい環境を整えている。残存能力を活かし、入浴ができるようスタッフが介助をし、浴場設備を整えてある		